

議事録 第3回読書活動推進委員会

日時: 令和7年2月7日(金)

会場: 県庁5号館511号室

	発言者	発言内容
開 会	佐藤主幹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は、評価数値をもとに、なぜそうなったのかを分析することになっていくことになる。 ・ 本日もよろしくお願いします。
説 明	竹内委員長 藺田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明をお願いします。 ○ 本日の流れを説明 ○ 各課の事業内容、成果と課題を説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育政策課・高校教育課・義務教育課・県教育研修センター ・ 県立図書館・子ども政策課・生涯学習課 ○ これまで意見いただいたことを整理し、課題について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭・学校・地域の分野 ・ 漫画については肯定的な意見が多い。 ・ 電子書籍は周知不足、PR 必要 ・ 管理指標の結果から、読書の在り方について意見をいただいた。 ・ 読書の捉え方など、これらを参考にしながら漫画や電子書籍なども含めて、次期読書活動推進計画の確定につなげていく。 ・ 教育庁、推進委員からでた課題について整理した。 ・ 今後のスケジュール、来年度からは第4期の取り組みを整理していく必要がある。 ・ 生涯読書活動計画についても協議していきたい。それを念頭におきながら、協議に望んでほしい。
	竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問はないか
	林田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍の実績の判断をどう評価しているか。また、グループ協議を行う理由は何か。
	木村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍は想定よりも高い利用率である。
	藺田	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ1人1人の意見が反映されるようにそれぞれの分野に特化した方で編成した。
	竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他になければ協議視点を説明してほしい。

	<p>寺田委員 (まとめ)</p> <p>飽田委員 (まとめ)</p>	<p>グループ3：地域や大人における読書活動推進</p> <p>(1)環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルや地域の読書会などの後に、座談会を実施する等、アウトプットができる場を設ける。 <p>(2)人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを行った後に、子どもに感想を聞く場を設ける。 ・読書活動推進委員の熱量をもっと人材育成や啓発に活用する。 <p>(3)普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書の良さをもっと伝える。 (例) 論理的思考が向上するなど、メリットを伝える。 <p>(4)電子書籍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の使い方について、講習会を行う。 (例) 高齢者向け、使ったことのない方向け、など <p>(5)みやざき読書アンバサダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米良美一氏に出演頂き、読書の進め方を紹介するストーリー仕立ての動画を製作して、広報する。 (例) 米良氏の人生を変えた一冊を紹介し、その本と出会った経緯やその後の人生の変化を伝える。 <p>グループ4：読書バリアフリーに係る読書活動推進</p> <p>(1)環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書バリアフリー体験セット」を県で購入して、学校などに貸し出しを行い、県民の方々が触れる機会をつくる。 → 地域のニーズも分かってくる。(普及啓発へ) <p>(2)人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員等スキルアップ研修に、福祉事業所の職員も参加できるようにすることで、カウンターでの対応がより向上する。 <p>(3)普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひなたのつどい」で「読書バリアフリー体験セット」を展示したように、福祉関係のイベント、子どものイベント、高齢者、外国人向けのイベント等で、触れる機会をつくるとよい。 <p>(4)電子書籍</p> <p>(5)みやざき読書アンバサダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の「読書県みやざき」PR 動画の製作は、「読書バリアフリー編」としてはどうか。「“五感”を活かした読書」をテーマに、米良美一氏とそれぞれの当事者の方が出演するCMだと、伝わりやすい。
<p>議 全 体 協</p>	<p>竹内委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルについて、作家を招く、負けた人も挽回できるようにすると良い。 ・村上春樹を語る会からの発展→移住促進も考えられる。

	寺田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の取り組みで、児童書の感想を出版社に送る。その出版社から著者に送られ、何かしらのリアクションがかえってくる。読書推進につながるのでは。
	相良委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで、個別には渡していたことはある。だめではない。 ・ 他にも、高校生だけで直木賞をとるイベントで、作家に会えるおまけ付きのイベントもある。埼玉県の高中生、その年の NOI を決める、一位の作家がコメントをくれるものもある。
	竹内委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞社をはじめとした様々な機関と連携しての読書感想文の実施やイベント名称を決めて実施するも面白い。 ・ どうしたら高校生が本を読むのか、高校生から意見を聞き、本委員会で代弁する。
	林田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者目線にたって、不読者の高校生との対話を続けることは大事。 ・ 推進委員が推進することを押しつけるのではなく、知事をはじめとした著名人に読書のことについて語ってもらうなどすればよい。
閉会	中村補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内の意見と違った視点で意見をいただけることが推進委員会の良さ。 ・ 令和7年が読書県みやざき推進事業の終期。今後を構築していく上で非常に大事な年になる。 ・ ようやく読書県が浸透してきたが、まだまだ不十分。 ・ 委員の意見を参考に今後の事業を構築していく。
	藺田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も県の読書推進に関し、意見をいただきたい。 ・ 様々な立場から意見をいただいた。ありがとうございました。